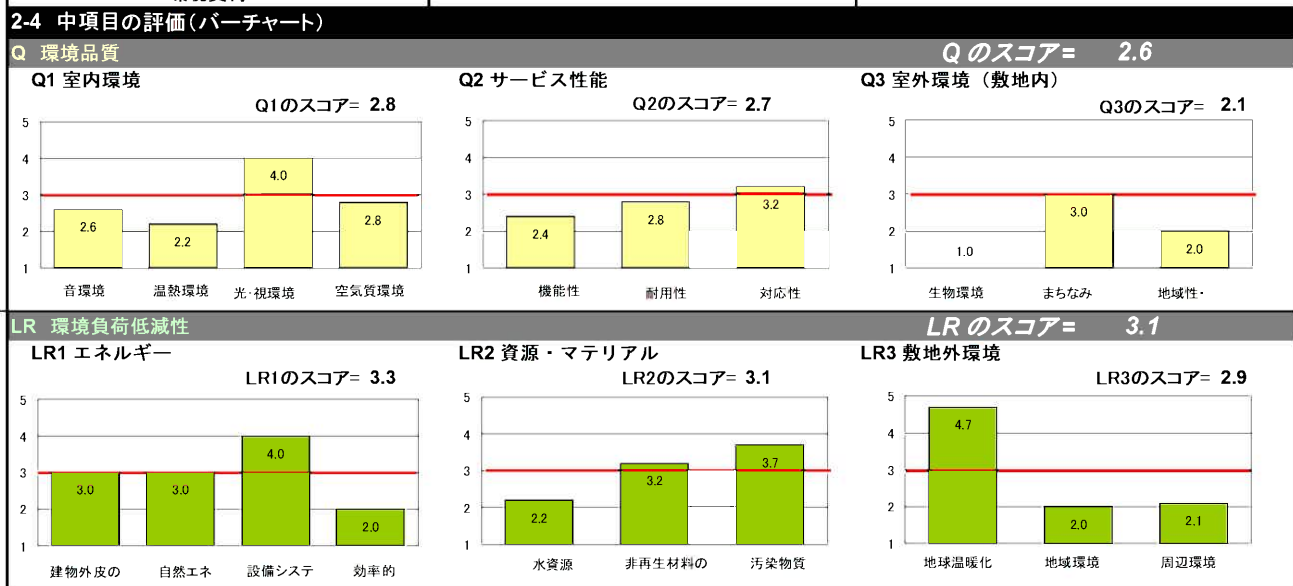
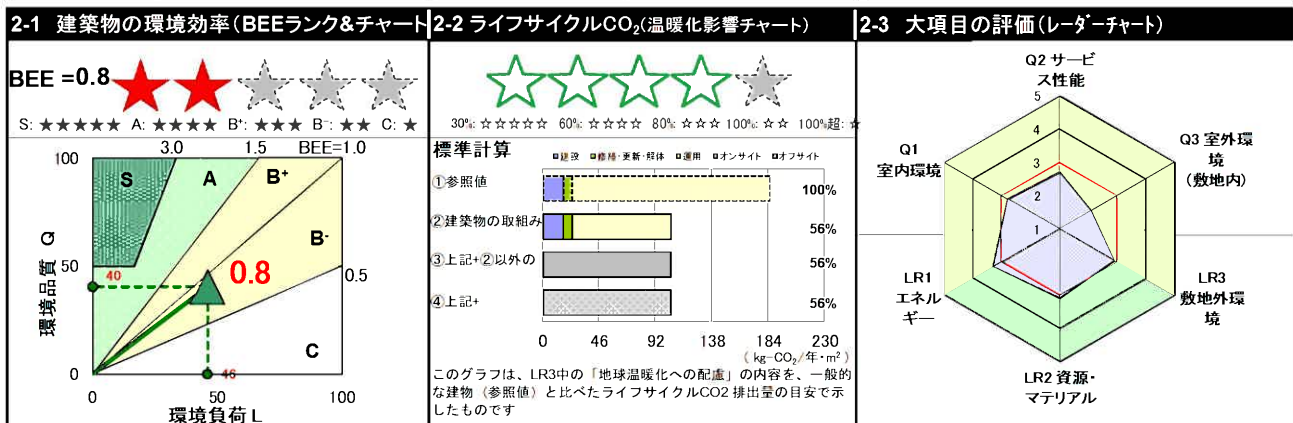




1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	(仮称)新発寒2条1丁目計画 サツドラ・ダイソー棟		階数	地上1F
建設地	札幌市手稲区新発寒2条1丁目1115番314の内		構造	S造
用途地域	第1種住居地域 法22条区域		平均居住人員	- 人
気候区分	2地域		年間使用時間	4,745 時間/年
建物用途	物販店		評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2017年11月	予定	評価の実施日	2017年3月6日
敷地面積	7,291 m ²		作成者	嶋 和明
建築面積	2,093 m ²		確認日	2017年10月3日
延床面積	2,026 m ²		確認者	菊池 俊一郎



3 設計上の配慮事項		
総合 敷地の空気を十分に確保し、十分な駐車スペースと堆雪スペースを確保した。平屋建てとすることで、周辺に配慮した。		A 省エネルギー 屋根は外断熱とした。 外壁にはグラスウールを充填した。 テナントの入替に備え、地下配管ピットを配した。
B 省資源等 内装材、外装材と設備配管は、極力分離した。	C 緑化 南東・南西側の道路境界沿いに植栽を配した。	D 雪処理 無落雪屋根とし、建物周囲への落雪に配慮した。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE Sapporo2014v1.2

(仮称)新発寒2条1丁目計画 サツドラ・ダイソー棟

■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2014v1.2

■評価ソフト: CASBEE札幌2014 (ver.1.3)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		重点評価項目		■A:省エネルギー		■B:省資源		■C:緑化		■D:雪処理		
配慮項目		重点評価項目				環境配慮設計の概要記入欄				建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
		A	B	C	D					評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質														2.6
Q1 室内環境											0.40		-	2.8
1 音環境										2.6	0.15		-	2.6
1.1 騒音										3.0	0.40		-	
1.2 遮音										3.0	0.40		-	
1 開口部遮音性能										3.0	1.00		-	
2 界壁遮音性能													-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)													-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)													-	
1.3 吸音										1.0	0.20		-	
2 温熱環境										2.2	0.35		-	2.2
2.1 室温制御										2.8	0.50		-	
1 室温		A								3.0	0.50		-	
2 外皮性能										2.0	0.17		-	
3 ゾーン別制御性										3.0	0.33		-	
2.2 湿度制御										1.0	0.20		-	
2.3 空調方式										2.0	0.30		-	
3 光・視環境										4.0	0.25		-	4.0
3.1 昼光利用										3.0	0.50		-	
1 昼光率													-	
2 方位別開口													-	
3 昼光利用設備		A								3.0	1.00		-	
3.2 グレア対策													-	
1 昼光制御		A											-	
2 網り込み対策													-	
3.3 照度													-	
3.4 照明制御						リモコンによる調光機能有り				5.0	0.50	3.0	-	
4 空気質環境										2.8	0.25		-	2.8
4.1 発生源対策										4.0	0.50		-	
1 化学汚染物質						F☆☆☆☆材の使用				4.0	1.00		-	
2 アスベスト対策													-	
4.2 換気										2.0	0.30		-	
1 換気量										3.0	0.50		-	
2 自然換気性能													-	
3 取り入れ外気への配慮										1.0	0.50	3.0	-	
4.3 運用管理										1.0	0.20		-	
1 CO ₂ の監視										1.0	0.50		-	
2 喫煙の制御										1.0	0.50		-	
Q2 サービス性能										-	0.30		-	2.7
1 機能性										2.4	0.40		-	2.4
1.1 機能性・使いやすさ										1.0	0.40		-	
1 広さ・収納性													-	
2 高度情報通信設備対応													-	
3 バリアフリー計画										1.0	1.00		-	
1.2 心理性・快適性										3.6	0.30		-	
1 広さ感・景観						売場の天井高さ3600mm,3950mm				5.0	0.33		-	
2 リフレッシュスペース										3.0	0.33		-	
3 内装計画										3.0	0.33		-	
1.3 維持管理										3.0	0.30		-	
1 維持管理に配慮した設計										3.0	0.50		-	
2 維持管理用機能の確保										3.0	0.50		-	
3 衛生管理業務													-	
2 耐用性・信頼性										2.8	0.30		-	2.8
2.1 耐震・免震										3.0	0.50		-	
1 耐震性										3.0	0.80		-	
2 免震・制振性能										3.0	0.20		-	
2.2 部品・部材の耐用年数										3.1	0.30		-	
1 躯体材料の耐用年数						鉄骨造				4.0	0.20		-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔			B							2.0	0.20		-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔			B							2.0	0.10		-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔			B							3.0	0.10		-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔			B			汚水排水管、雑排水管、通気管・VP				4.0	0.20		-	
6 主要設備機器の更新必要間隔			B							3.0	0.20		-	
2.4 信頼性										2.0	0.20		-	
1 空調・換気設備										3.0	0.20		-	
2 給排水・衛生設備										2.0	0.20		-	
3 電気設備										1.0	0.20		-	
4 機械・配管支持方法										1.0	0.20		-	
5 通信・情報設備										3.0	0.20		-	
3 対応性・更新性										3.2	0.30		-	3.2
3.1 空間のゆとり										3.4	0.30		-	
1 階高のゆとり										3.0	0.60		-	
2 空間の形状・自由さ						開口部は極力小さくしている				4.0	0.40		-	
3.2 荷重のゆとり										3.0	0.30		-	
3.3 設備の更新性										3.4	0.40		-	
1 空調配管の更新性										3.0	0.20		-	
2 給排水管の更新性										3.0	0.20		-	
3 電気配線の更新性						着脱可能な天井材を使用				5.0	0.10		-	
4 通信配線の更新性						着脱可能な天井材を使用				5.0	0.10		-	
5 設備機器の更新性										3.0	0.20		-	
6 バックアップスペースの確保										3.0	0.20		-	

CASBEE Sapporo2014v1.2

(仮称)新発寒2条1丁目計画 サツドラ・ダイソー棟

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2014v1.2

■評価ソフト: CASBEE札幌2014 (ver.1.3)

スコアシート	実施設計段階	重点評価項目				■A: 省エネルギー	■B: 省資源	■C: 緑化	■D: 雪処理		
		重点評価項目									
配慮項目		A	B	C	D	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
							評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q3 室外環境(敷地内)											
1 生物環境の保全と創出				C			1.0	0.30	-	-	2.1
2 まちなみ・景観への配慮				C			3.0	0.40	-	-	1.0
3 地域性・アメニティへの配慮							2.0	0.30	-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上					D		2.0	0.50	-	-	2.0
3.2 敷地内温熱環境の向上		B		C			2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性											
LR1 エネルギー											
1 建物外皮の熱負荷抑制	A						3.0	0.20	-	-	3.3
2 自然エネルギー利用	A						3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化							4.0	0.50	-	-	4.0
集合住宅以外の評価(3a.3b)	A					省エネ法計算により	4.0	1.00	-	-	
集合住宅の評価(3c)	A						-	-	-	-	
4 効率的運用							2.0	0.20	-	-	2.0
集合住宅以外の評価							2.0	1.00	-	-	
4.1 モニタリング	A						3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制	A						1.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価							-	-	-	-	
4.1 モニタリング	A						3.0	-	-	-	
4.2 運用管理体制	A						-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル											
1 水資源保護							-	0.30	-	-	3.1
1.1 節水							2.2	0.20	-	-	2.2
1.2 雨水利用・雑排水等の利用							1.0	0.40	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無							3.0	0.60	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無							3.0	0.70	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減							3.0	0.30	-	-	
2.1 材料使用量の削減							3.2	0.60	-	-	3.2
2.2 既存建築躯体等の継続使用		B					3.0	0.14	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		B					-	-	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		B					3.0	0.29	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		B					3.0	0.29	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		B				内装材と設備を分離して配置	-	-	-	-	
4.0 2.9							4.0	0.29	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避							3.7	0.20	-	-	3.7
3.1 有害物質を含まない材料の使用							3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避							4.0	0.70	-	-	
1 消火剤		B				不活性ガス消火剤使用	4.0	0.50	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)		B				冷媒ガスの使用なし	4.0	0.50	-	-	
3 冷媒		B					-	-	-	-	
LR3 敷地外環境											
1 地球温暖化への配慮		B				各設備の更新性に配慮した	-	0.30	-	-	2.9
4.7							4.7	0.33	-	-	4.7
2 地域環境への配慮							2.0	0.33	-	-	2.0
2.1 大気汚染防止		B					3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善		B	C	D			1.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制							3.2	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減		B					3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制							3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制						周辺道路の渋滞緩和対応	5.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制		B			D		2.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮							2.1	0.33	-	-	2.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止							3.0	0.40	-	-	
1 騒音							3.0	0.33	-	-	
2 振動							3.0	0.33	-	-	
3 悪臭							3.0	0.33	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制							1.6	0.40	-	-	
1 風害の抑制							1.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制							1.0	-	-	-	
3 日照障害の抑制							3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制							1.6	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策							1.0	0.70	-	-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策							3.0	0.30	-	-	

Comprehensive Assessment System for Building Environmental Efficiency

CASBEE札幌



重点項目 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2014v1.2

■使用評価ソフト: CASBEE札幌2014(ver.1.3)

1 建物概要

建物名称	(仮称)新発寒2条1丁目計画 サツドラ・ダイソー棟	BEE	0.8	BEEランク	B ⁻
建物用途	物販店	総合評価 ★★☆☆☆			
延床面積	2,026.47 m ²				

2 重点項目への取り組み

レーダーチャート



3. 設計上の配慮事項とCASBEEスコア

A 省エネルギー				合計	16点	／24点
Q1 温熱環境	スコア	0.0	LR1 建物外皮の熱負荷抑制	スコア	2.0	
Q1 光・視環境	スコア	3.0	LR1 自然エネルギー利用	スコア	1.0	
			LR1 設備システムの高効率化	スコア	8.0	
			LR1 効率的運用	スコア	2.0	
B 省資源等				合計	17点	／23点
Q2 耐用性・信頼性	スコア	1.0	LR2 非再生性資源の使用量削減	スコア	6.0	
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	1.0	LR2 汚染物質含有材料の使用回避	スコア	2.0	
			LR3 地球温暖化への配慮	スコア	5.0	
			LR3 地域環境への配慮	スコア	2.0	
C 緑化				合計	7点	／16点
Q3 生物環境の保全と創出	スコア	1.0	LR3 地域環境への配慮	スコア	1.0	
Q3 まちなみ・景観への配慮	スコア	4.0				
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	1.0				
D 雪処理				合計	0点	／3点
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	0.0	LR3 地域環境への配慮	スコア	0.0	

4 設計上の配慮事項

A 省エネルギー		
屋根は外断熱とした。 外壁にはグラスウールを充填した。 テナントの入替えに備え、地下配管ピットを配した。		
B 省資源等	C 緑化	D 雪処理
内装材、外装材と設備配管は、極力分離した。	南東・南西側の道路境界沿いに植栽を配した。	無落雪屋根とし、建物周囲への落雪に配慮した。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される